病害虫対策資料第21号

佐農技防第 824 号
平成 27 年 1 月 29 日

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

タマネギべと病の防除の徹底について

－越年罹病株の抜き取りの徹底を！－

タマネギべと病は土壌伝染し、秋から冬に感染した株が１月下旬から３月にかけて越年罹病株として発生します。そして、感染・発病に好適な気温となる３月以降に、この越年罹病株が二次伝染源となり、春期にべと病の発生の増加と蔓延を引き起こします（図１）。よって、**二次伝染する前に越年罹病株の抜き取りを徹底**することが防除対策上非常に重要です。

近年は、越年罹病株の初確認が早まる傾向にあり、本年は１月下旬から発生が認められています（表１、２）。

つきましては、圃場の観察（**特に昨年本病の発生が多かった圃場や地域においては必ず**）に基づく越年罹病株の早期発見に努め、**「越年罹病株の抜き取り」**を徹底してください。

記

１．発生概況

(1) 1 月 26 日の巡回調査では、本年産での越年罹病株の発生を 16 圃場中 2 圃場（マルチ 1 圃場、露地 1 圃場）で確認した（表１、２、写真１）。

(2) 近年、べと病は多発傾向にあり、地域内での菌密度は高まっていると考えられる。

(3)県内の一部の苗床では本年産の育苗中にべと病の発生が認められた。

図１ タマネギべと病の発生パターン

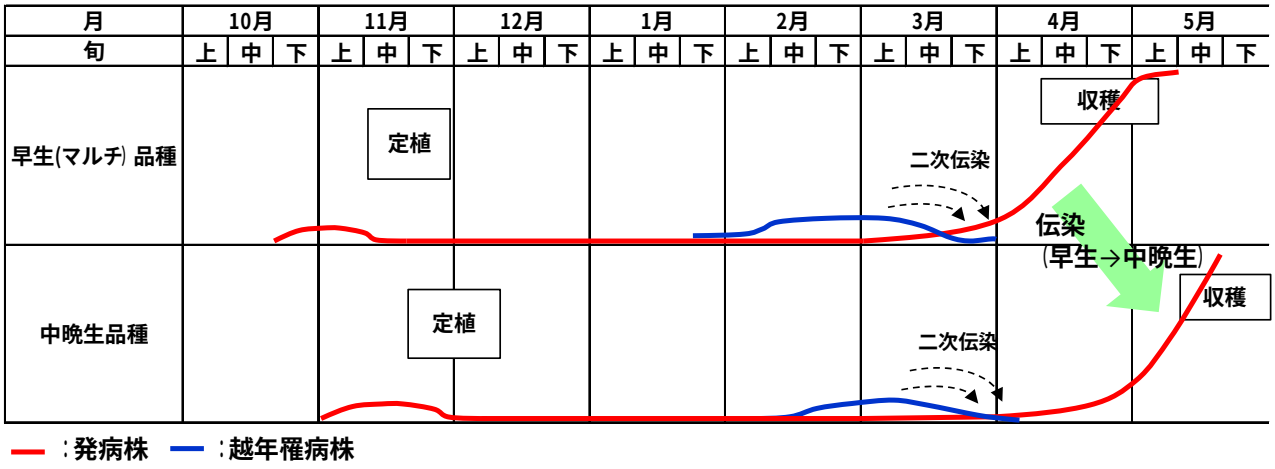

表１ タマネギ巡回調査におけるべと病の越年罹病株の発生状況(各圃場2,000株調査)

調査年月日	各調査圃場(a～p)におけるべと病の発生株率（%）															
	マルチ被覆圃場								露地圃場							
	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p
平成27年1月26日	**0.10**	0	0	0	0	0	0	0	**0.05**	0	0	0	0	0	0	0

表２　タマネギ巡回調査におけるべと病越年罹病株の初確認日

調査年	初確認日	
	マルチ被覆圃場	露地圃場
平成24年	2月28日	3月21日
平成25年	2月7日	2月20日
平成26年	2月3日	2月3日
平成27年	**1月26日**	**1月26日**

注）４か年とも、マルチ、露地タマネギを8圃場ずつ調査（各圃場2,000株調査）

２．防除対策（表３参照）

(1)圃場を観察し、**越年罹病株の発生状況を確認**する。ただし、越年罹病株は発生数が極めて少ないため、観察は丁寧に行う。

(2)**越年罹病株を発見した場合は、抜き取って圃場外へ持ち出して確実に処分**する。

(3)**越年罹病株による二次伝染が始まる（３月上旬頃）までは保護殺菌剤等による薬剤散布を徹底**する。

(4)トンネル栽培や早生タマネギで早期に発生したべと病が、周辺のタマネギの感染源となる場合があるため、**防除対策には地域全体で取り組む**。

写真１ マルチ被覆タマネギにおけるべと病越年罹病株(平成 27 年 1 月 26 日撮影)

表３　タマネギべと病の特徴と防除のポイント

時期	感染（肉眼では気づかない）や発病（肉眼で分かる）など	防除対策
秋期 （苗床、定植後）	・土の中に生存する菌が、タマネギに感染する。	・育苗期から防除を行い、この時期の感染を防ぐ。
12月～1月頃	・低温のために、冬の間に感染株が発病することは少ない。	－
1月下旬 ～3月頃	・感染株が、1月下旬～3月に発病する（越年罹病株）。 →症状は、葉が黄化・色あせ、湾曲し、草丈が小さくなる。株全体にビロード状の灰色～灰褐色の分生子を形成する。 	・越年罹病株を早期に発見し、抜き取る。
3月 以降	・3月上旬頃（平均気温10℃以上で降雨が続く時期）から越年罹病株の周囲の株に2次伝染する。 ・4月中旬～5月中旬にさらに発生が増加する。 →発生株は、葉に淡黄緑色の楕円形の病斑ができ、やがて枯死する場合もある。 	・2次伝染直前の防除を徹底する。 ・引き続き、発生初期の防除に重点をおきながら、発生状況に応じた追加防除を行う。 ・気温15℃前後で曇雨天が続くと多発生しやすいので、このような場合は特に防除を徹底する。